

◆ 一般会計要求総額 80,403百万円
(対前年度 △ 6.2%)

【令和4年度 予算要求の経営方針】

新型コロナの影響による社会情勢の悪化等による歳入への影響や、コロナ禍を契機とした新たな財政需要などを踏まえると、本市の財政は、今後も相当厳しい状況が続くことが見込まれる。

このような中、財政局においては、業務委託の拡大やシステム構築等を通じて効率性・利便性の向上を図るとともに、税外債権を含めた市債権の適正な管理を推進する。

また、引き続き、未利用地の売却促進・資産の有効活用に取り組むとともに、安定的な資金調達を推進することで、健全で持続可能な財政基盤の確立に邁進していく。

【令和4年度 予算要求の基本的な考え方】

持続可能で安定的な財政の確立と維持

◎ 予算編成等における取組

要求額 49百万円 (対前年度 △ 10.9%)

予算編成の効率化	限られた財源の中で、健全な財政運営を維持するため、「北九州市行財政改革大綱」に基づく持続的な仕事の見直しなど、「見直すものは見直し、強めるものは強めていく」という「選択と集中」を図る。 ◆ 新財務会計システムの導入による予算編成事務の効率化など
財政の見える化の取組	市民に、本市の財政状況や予算についての理解を深めていただくため、「わかりやすい北九州市の財政（パンフレット）」の充実を図る。また、「財務書類（バランスシート等）」の作成や、市ホームページへの予算書や中期財政見通し等の掲載を引き続き行うなど「財政の見える化」の取組を進めていく。 ◆ 「わかりやすい北九州市の財政」の充実 ◆ 統一的な基準による財務書類作成 など

◎ 収入の確保・資産の有効活用等における取組

要求額 3,844百万円 (対前年度 + 14.5%)

市税収入等の確保	市税については、課税客体の正確な把握など、適正・公平な課税を行うとともに、高額事案等の滞納整理を重点的に実施し、収入率の向上を図る。 また、業務委託の拡大やシステム構築等を通じて、事務処理の効率性を高め、税外債権を含めた市債権の適正な管理を推進するとともに、DX（デジタルトランスフォーメーション）にも積極的に取り組み、各種手続の利便性向上や作業の更なる効率化・省力化に向けた業務改革を進める。 ◆ 市税の収入率の向上 ◆ 税務DXの推進 ◆ 税外債権を含めた市債権の適正な管理 など
未利用市有地の処分及び有効活用等	自主財源の確保のため、未利用市有地の積極的な商品化を進め、売却促進に取り組むとともに、個々の土地の特性に応じた活用を図るため、事業用定期借地等による貸付けなどを実施する。 また、商品化及び活用されるまでの未利用市有地の維持管理を行う。 ◆ 未利用市有地の一元管理と有効活用の促進事業 など
ESG債の発行	ESG投資に関心が高い新たな投資家の獲得、本市のSDGsに関する先進的な取組の理解の促進、財源確保の多様化や安定化を図るため、サステナビリティボンド「北九州SDGs未来債」を継続発行する。

◎ 公債償還特別会計繰出金

要求額 68,000百万円 (対前年度 △ 0.6%)

◎ 公営企業費

要求額 ※ 7,006百万円 (対前年度 + 1.1%)

※「公営企業費」の要求額は、一般会計繰出金について、企業局（上下水道局・交通局）等から要求を受けた額になります。

◎ 北九州市SDGs未来基金積立事業

要求額 204百万円 (前年度 4,644百万円)

◎ 予備費

要求額 ※ 1,300百万円 (前年度 2,300百万円)

※新型コロナウイルス感染症対策を想定した予備費を計上するもの。

【特別会計】

◎ 公債償還特別会計

要求額 153,523百万円 (対前年度 ▲ 3.8%)

※ 公開時点での予算要求の内容であり、令和4年度に実施することが確定しているものではありません。